


スマート農業実証プロジェクトにおける実証技術別の成果等 を取りまとめた「スマ農成果ポータル」サイトの紹介

2019年度から始まったスマート農業実証プロジェクトは、2023年7月時点で、全国217地区で事業が採択され、うち182地区で事業期間が終了し、35地区で現在も実証がなされています。実証地区ごとの成果は、これまで農林水産省のwebサイトに掲載されていますが、実証技術別の成果や、実証技術の導入前後の留意点など、実証技術別のまとめた情報はこれまで公開されていませんでした。そこで、スマート農業技術の社会実装を加速化させるため、実証技術別の成果情報をまとめるとともに、スマート農業実証プロジェクトの各種成果を検索できるポータルサイトを農研機構内のwebサイトに開設いたしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. ポータルサイトのトップページでは、閲覧者の目的に応じて、スマート農業実証プロジェクトにおける「経営分析の結果」や、「導入技術に関する情報」、「実証地区別の情報」など、知りたい情報に容易にアクセスできるようにしています。
2. 導入技術に関する情報では、各実証地から得られた情報を取りまとめ、各技術の導入効果（写真1）のみならず、導入の効果が現れなかった例や、運用中に発生したトラブルの例も記載しています。
3. あわせて、導入前にチェックすべき項目をまとめたチェックリストも作成し、技術導入を検討する側の視点に立って、情報を取りまとめています。

導入の効果



- 無人で圃場内を自動走行するトラクタ。有人機と無人機の協調作業により、1人で2台の操作が可能。無人機を圃場内や周辺から常時監視して使用し、非常時の操作等を行う。
- 価格帯(目安):1,000万円～1,500万円

ロボットトラクタの耕起・代かき作業時間(時間/10a)

No.	立地条件	地域	慣行	スマート農機	削減率	備考
1	平場	北陸	0.37	0.23	38%	耕起 (2台協調)
2	平場	東海	0.60	0.48	20%	耕起 (2台協調)

写真1 自動運転トラクタに関するページ一部抜粋

☆ 活用面での留意点

1. スマ農成果ポータル https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/seika_portal/index.html
(農研機構 農業経営戦略部 (みどり戦略・スマート農業推進室併任) 田口光弘)